

小樽信用金庫・札幌信用金庫・北海信用金庫の対等合併合意について

平成 27 年 11 月 2 日

お客様各位

このたび小樽信用金庫・札幌信用金庫・北海信用金庫の 3 金庫は、平成 30 年 1 月を目処として、対等合併することで合意いたしました。

今後は、システムの調整等準備作業を慎重に行い、平成 29 年 6 月の総代会の決議と北海道財務局長の認可を得た上で所定の合併手続きを進めるとともに、3 金庫の役員が一丸となって、従来にも増して地元のお役に立てる信用金庫を目指して努力して参る所存でございます。

何卒、倍旧のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

なお、詳細につきましては、「合併趣意書」および「合併の基本事項」をご高覧いただきますようお願い申し上げます。

小樽信用金庫
理事長 佐林 史明

本件についてのお問合せ窓口
小樽信用金庫 お客様相談室
電話番号 0134-22-3122

合併趣意書

このたび、札幌信用金庫、北海信用金庫、小樽信用金庫の三金庫は、平成30年1月を目処として対等の立場で合併することで基本合意いたしました。

三金庫は、道央圏を主要な営業基盤として、創業以来の長い歴史の中でそれぞれ独自の伝統を育みつつ、地域の皆様からご愛顧いただき、地域の安定と繁栄に努めてまいりました。

今後、平成30年度に北海道横断自動車道の小樽・余市間が開通し、更に平成42年度には北海道新幹線が札幌まで延伸されることで三金庫のエリアの結びつきは一層強まってまいります。一方で、人口減少や高齢化が顕在化しつつあり、地域を取り巻く環境は大きく変化しております。

こうした中、信用金庫が将来にわたり地域で信頼され必要とされる金融機関であり続けるには、「まち・ひと・しごと創生」への貢献は勿論のこと、これまで以上に地域密着の姿勢を強めるとともに、より強固な経営基盤を構築することが不可欠と考えます。

三金庫の合併後の預金は1兆円を超え、貸出金は約6千億円、自己資本の額は7百億円を超え、今後、ダイナミックな経営が可能になります。私ども三金庫は、時代の変化や環境の変化等により生じる様々な課題に対応できる信用金庫を創造すべく、また、道央圏の核となり北海道を代表する信用金庫となるべく、今般の合併合意に至りました。

なお、今回の合併の目指すものは次のとおりです。

1. 本合併を機に地域の皆様に、より安定的な資金の供給と、それぞれのライフサイクルに応じた各種金融サービスを継続的にご提供し、高度化・多様化するご要望に、よりの確にお応えできる信用金庫を目指します。
2. 三金庫が有する経営資源の有効活用により経営基盤を一層強化して、地域社会の発展と中小企業の育成に向けた取組みを更に充実させ、景気のサイクルに左右されない質の高い金融仲介機能を発揮できる信用金庫を目指します。
3. 三金庫の総合力を発揮し利便性を高め、よりきめ細かな営業を展開しつつ各種リスク管理の高度化を進めることにより、営業基盤と経営体質の一層の強化を目指します。

今回の合併は、統合による豊富な資金量を最大限に活用することで、お客様の期待に応える地域金融機関として、また、皆様から信頼され支持される金融機関として、地域経済活性化と地方創生に大きな貢献を果たしていくためのものであります。

今後は、お客様をはじめ各方面からのご協力を得て、順次所定の合併手続きを進めてまいりますので、今後とも格別のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年11月2日

札幌信用金庫	会長	吉本 淳一
札幌信用金庫	理事長	前田 繁利
北海信用金庫	理事長	西田 覚
小樽信用金庫	理事長	佐林 史明

合併の基本事項

1. 合併期日 平成30年1月を目処とする。
2. 合併の方法 対等合併とし、合併手続き上は札幌信用金庫を
存続金庫とする。
3. 合併後の名称(商号) 協議の上で決定する。
4. 合併後の本店・本部等 本店：札幌信用金庫の本店
本部：札幌信用金庫の本部
なお、北海信用金庫、小樽信用金庫の
現在の本店に事業本部(仮称)を置く。
5. 合併後の役員 協議の上で決定する。
6. 職員の引継ぎ 存続金庫において引き継ぎ雇用する。
7. その他合併の主要事項
 - (1) 合併金庫の出資 合併比率は対等とし、出資1口の額は後日の協議に
より決定する。
 - (2) 合併の効力 平成29年6月に開催予定の通常総代会決議および
北海道財務局長の認可を条件とする。
 - (3) 合併準備委員会 合併に関する細目を協議するため、合併準備のための
委員会を設ける。
8. 三金庫の概要、
沿革・営業区域 別紙のとおり

(お問い合わせ先)

札幌信用金庫	担当部署：総合経営推進部	(電話)011-241-2125
北海信用金庫	担当部署：経営企画部	(電話)0135-22-2128
小樽信用金庫	担当部署：経営企画室	(電話)0134-22-3123

(別紙)

① 三金庫の概要(平成27年3月末現在)

金額単位：百万円

	札幌信用金庫	北海信用金庫	小樽信用金庫	合計	
本店所在地	札幌市中央区南2条 西3丁目15番地の1	北海道余市郡余市町 黒川町4丁目5番地	北海道小樽市稲穂 1丁目4番10号	—	
本部所在地	同上	同上	同上	—	
会長	吉本 淳一	—	—	—	
理事長	前田 繁利	西田 覚	佐林 史明	—	
預金末残	495,543	404,306	131,560	1,031,409	
貸出金末残	315,877	208,685	66,860	591,422	
預貸率	63.74%	51.61%	50.82%	57.34%	
自己資本の額	38,970	29,187	4,778	72,935	
自己資本比率	17.28%	15.91%	11.39%	16.17%	
出資金	1,044	1,513	720	3,277	
会員数	35,464	39,552	12,059	87,075	
役員数	325	362	156	843	
店舗数	38	*1 38	14	87	
全道順位	貸出金	1位	5位	19位	1位
	預金	3位	5位	20位	1位

*1 北海信用金庫の店舗数には3代理店を含みます。

参考… 三金庫合計の全国順位 ～ 貸出金末残：第26位、預金末残：第33位

② 沿革

札幌信用金庫	北海信用金庫	小樽信用金庫
大正10年12月 有限責任山鼻 信用組合として設立	大正15年3月 有限責任余市信用 組合として設立	大正11年2月 有限責任小樽市 街地信用組合として設立
昭和9年10月 南札幌信用組合 に改称	昭和24年7月 後志信用組合に 改称	大正11年10月 有限責任小樽市 信用組合に改称
昭和10年11月 札幌信用組合 に改称	昭和26年10月 信用金庫法施行 に伴い後志信用金庫に改組	昭和26年10月 信用金庫法施行 に伴い小樽信用金庫に改組
昭和26年12月 信用金庫法施行 に伴い札幌信用金庫に改組	昭和39年8月 北海信用金庫に 改称	平成14年3月 小樽商工信用 組合の事業を譲受
昭和31年3月 北海信用金庫 (現北海信用金庫とは別)と合併	平成3年9月 長万部信用金庫 と合併	
平成15年1月 石狩中央信用 金庫と合併	平成9年10月 岩内信用金庫と 合併	
	平成13年10月 道央信用金庫、 夕張信用金庫と合併	
	平成17年2月 古平信用金庫と 合併	

③ 営業区域

札幌信用金庫	北海信用金庫	小樽信用金庫
<p>(北海道)</p> <p>札幌市、千歳市、恵庭市、 江別市、北広島市、石狩市、 小樽市、苫小牧市、岩見沢市、 石狩郡当別町、夕張郡長沼町、 空知郡南幌町、樺戸郡月形町、 石狩郡新篠津村</p>	<p>(北海道)</p> <p>余市郡余市町、余市郡仁木町、 余市郡赤井川村、岩内郡共和町、 虻田郡倶知安町、虻田郡ニセコ町、 虻田郡真狩村、虻田郡留寿都村、 虻田郡喜茂別町、虻田郡京極町、 磯谷郡蘭越町、島牧郡島牧村、 寿都郡寿都町、寿都郡黒松内町、 小樽市、札幌市、古平郡古平町、 積丹郡積丹町、虻田郡豊浦町、 虻田郡洞爺湖町(但し、旧虻田町を除く)、 伊達市(但し、旧伊達市を除く)、 北広島市、江別市、石狩市、 恵庭市、千歳市、夕張市、 苫小牧市、岩見沢市(但し、旧北村を除く)、 岩内郡岩内町、古宇郡泊村、 二世郡八雲町(但し、旧熊石町を除く)、 古宇郡神恵内村、 瀬棚郡今金町、山越郡長万部町、 久遠郡せたな町(但し、旧太櫓村・大成町を除く)、 夕張郡栗山町、 夕張郡長沼町、夕張郡由仁町、 空知郡南幌町</p>	<p>(北海道)</p> <p>小樽市、札幌市、石狩市、 島牧郡島牧村、寿都郡寿都町、 寿都郡黒松内町、磯谷郡蘭越町、 虻田郡ニセコ町、虻田郡真狩村、 虻田郡留寿都村、 虻田郡喜茂別町、虻田郡京極町、 虻田郡倶知安町、岩内郡共和町、 岩内郡岩内町、古宇郡泊村、 古宇郡神恵内村、積丹郡積丹町、 古平郡古平町、余市郡仁木町、 余市郡余市町、余市郡赤井川村、 北広島市、恵庭市、千歳市、 江別市</p>

*営業区域の記載は各金庫定款に基づく。